



エキストラ大活躍!

菜の花アート×ミックス金戦記

「房総園芸祭」いちばらアート×ミックスが3月2日(金)に開幕しました。

ボランティアで参加している皆さんの名称が「菜の花アート×ミックス」と決まり、作品展示地の整備や片付け、作曲制作のお手伝い、閉幕後は会場の整理や、なかには作品中のものへの参加など奉仕祭に無くてはならない活躍を見せてています。今回の里山通信では、開幕直前の風景をレポートします。

里山藝術祭となつた白良民館の「舞踏団トンデ空静」の幟作りのお手伝い。地元のお母さんたちも当時の「橋副市長も参加して、文字を書いたり、乾かしたりして大小あわせて、20本あまりの幟旗が出来上がりました。「竹ならくらでも切つてよ」と威勢のいい国本一心会の兼国会長。竹の長さを揃えたり、ドリルで穴を開けたりしながら旗がしっかりと固定する様な作業をしていました。

旧鳥小では『呼吸する廊下』のためのカゴス編み。これは特殊技術なので、万田野のベランでお母さん一人をお願いしたそうです。若い人で編める方はいないらしく、なかなか大変な作業です。しかし本人たちは「だれでもできますよ」と謙遜されていました。

里山通信では、開幕直前の風景をレポートします。竹ならくらでも切つてよ」と威勢のいい国本一心会の兼国会長。竹の長さを揃えたり、ドリルで穴を開けたりしながら旗がしっかりと固定する様な作業をしていました。

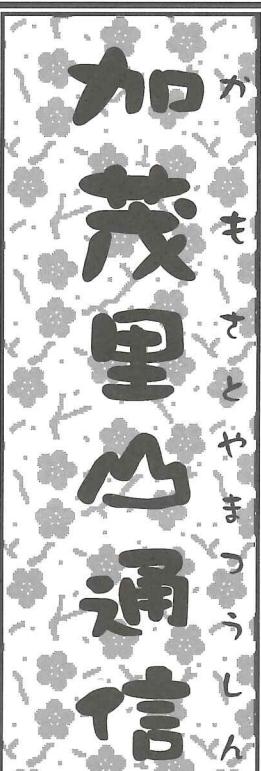
旧鳥小では『呼吸する廊下』のためのカゴス編み。これは特殊技術なので、万田野のベランでお母さん一人をお願いしたそうです。若い人で編める方はいないらしく、なかなか大変な作業です。しかし本人たちは「だれでもできますよ」と謙遜されていました。

ボランティアで参加している皆さんの名称が「菜の花アート×ミックス」と決まり、作品展示地の整備や片付け、作曲制作のお手伝い、閉幕後は会場の整理や、なかには作品中のものへの参加など奉仕祭に無くてはならない活躍を見せています。今回の里山通信では、開幕直前の風景をレポートします。

里山藝術祭となつた白良民館の「舞踏団トンデ空静」の幟作りのお手伝い。地元のお母さんたちも当時の「橋副市長も参加して、文字を書いたり、乾かしたりして大小あわせて、20本あまりの幟旗が出来上がりました。「竹ならくらでも切つてよ」と威勢のいい国本一心会の兼国会長。

竹の長さを揃えたり、ドリルで穴を開けたりしながら旗がしっかりと固定する様な作業をしていました。

旧鳥小では『呼吸する廊下』のためのカゴス編み。これは特殊技術なので、万田野のベランでお母さん一人をお願いしたそうです。若い人で編める方はいないらしく、なかなか大変な作業です。しかし本人たちは「だれでもできますよ」と謙遜されていました。



平成26年
春号

発行 市原商工会議所
加茂里山通信編集部
発行責任者 横原義久
編集長 矢野貴造

の先住民であるサンタル族を招き、地域の竹と藁と土を使って食事を作るところでも香港大学の学生さんと日本の学生さんが手伝っていました。言葉が通じないのに、作業の息はなぜか合っていた感じで身近な国際交流の場面でした。

(大賀根R里山通信員)

その日の午後には養老渓谷駅に集合して、「振輪ホテル」に呼ばれた人もいて、「お芝居に出るの?」「衣装はどうす

るの?」と不安もいっぱいです。翌週に行われた第2回打ち合わせでは、小湊鉄道が実際に走ってきて本番の時間通りにリハーサル、役者さんや音楽担当の皆さん方が小湊鉄道から降りてきました。小道真の打合せや風景エキ

ストラの動きなどを時間で合わせて動いてみて、いろいろなことを探りながら進んでいる状態のようです。菜の花畑のエキストラに応援よろしくお願いします。



地元産の竹と藁で小屋ができた

私たちも参加しました!



時間と手間と労力の結晶です

加茂里山1年生です!



みんななかよしだね

いちばらアート×ミックス
真っただ中!



これも地元産の芸術品

昨日出小では香港大学の学生さんと元左官職人も加わり、藁で組んだ壁に土を塗っていました。校庭では数種のカマドが出来上がり、料理の試作中。そして一番高いところでは岩間さんの「藏風待水」の作曲製作中。ここでも竹を製したり、杉の皮を剥いたり、ボランティアさん大忙しでした。「スケジュールがいっぱい」で手帳貰って整理しないといけないよ」とは地元の70代男性の弁。生き生きとした姿が印象的でした。月出小が何年ぶりに復活し、多くの人にぎわっています。

市民の森では『サンタルの食堂』(インド)

まず、パッチワークによる舞台の縫帳作りである。二ヶ月もの間、時間の都合をつけて集まって縫い上げた、他の地区の人達との共同制作ではあるが、加茂地区の自然をテーマにした立派な物が出来上がった。トンデ空静の皆さん全員で表現する踊り、切腹ピストルズの皆さんに響く太鼓のリズムは炭焼きをして暮らしてきた私達の祖

さあいよいよ本番。開演時間前に白良民館に集合。参加団体の織の中に炭焼き頭の会の織も風に旗めいている。すべての巻に暗幕を下げ、段々の客席を作つてすつかり劇場らしくなった公民館に音楽が鳴り始め、一人のダンサーの踊りで開演である。聞きなれない音楽と見た事のない踊りで墨禍不思議な世界に誘われ戸惑つていると、いきなり会場が明るくなり市原おどりの軽快な音楽と共に着物姿の踊り娘達が舞台へ登場で踊りだす。観客も手拍子を打ち、中には一緒に踊る人もいる。このように夢と現実が交錯しながらショーワーは進んでいく。炭焼き音頭の会は、花嫁行列と炭焼き作業の二場面で五分余りの出演だったが、昼食場面でのおにぎりや数珠つなぎのたくわんには会場から大きな笑いと拍手がおこった。公演が終わると観客の皆さんを出演者全員そろって玄関でお見送りをする。握手を求める人、サインを頼む人、写真を撮る人で玄関は人でいっぱいである。炭焼き音頭がつたのですよ」と声を掛け下さる人もいる。ハラハラドキドキで始まり、観客と共に楽しめるようになり、あらまおしまいもつとしたりかつたわと私達出演者のこれ実感。もうこんな体験は一度と出来ないだろう。やつて本当によかったです。大変貴重な体験をさせて下さった関係者の皆さん本当にありがとうございました。

入学おめでとう!

君たちを待っていたよ
がんばれ!

担任の先生より

政府に憲籍を乞ひし、突如「重慶國名を名乗り独立を宣
する話で、その国語は「重慶官話」（東北弁、いわゆる
「ズーズー弁」）でした。標準語とされる東京山の手言葉に
対し、地域の言葉こそが地域の文化であると考へ、誇りを持つ
て地域の言葉を語り大事にするべきであることを説き、なに
よりも言葉とにだつた作家の強い思いのこもつた作品でした。
地域の言葉を国語にするという癡想そのものが当時とし
ては新鮮で、標準語に対する方言を何か少々感を抱かせるよ
うな立時の世相の中で画期的でした。

今回の「じえじえじえ基本条例」は今までなかつたことか
不思議なもんで、これをきつかけに全国で地域の方言を盛
り込んだ公的な文章が出現していくような気がします。

里山からの発信

A black and white photograph showing a dense field of flowering rapeseed plants. The plants are tall and covered in small, light-colored flowers. The horizon line is low, and the sky above is a uniform, pale grey.

压实の葉の花あい

これはアーレビ番組の中の話ではありません。岩手県久慈市議会の議会運営の原則や議員の役割などを明文化したれつまとした議会基本条例【じえいじえい基本条例】です。久慈市は、存知のようにNHKの連続アーレビ小説「あまちゃん」で脚光を浴びたところです。この条例案の最大の特徴は議会の活動が市民生活にどのような影響を与えたかの検証を義務づけていることです。チェックシートなどを設け、市民に公開していく方針であること、又「がだって 参加して 會議」を設置して、市民と議会が気楽に話し合う場を設けると定めていることです。全国に400を超す自治体の議会基本条例がある中で、このように方言を前面に出した条例はないといいます。地域の方言

(前略) 議会は議員どうによる又議制の機關として、市長は独任制の機關として、与(あだ)えらべた権限のもとにおだげえの特性のいいどを生がして、市民の思いを市政にちやんと反映させるために競合つたり、協力合つたりしながら、(中略) わらあどう議会は、議会に与(あだ)えられたこの使命を達成するために、これまでにねえ発想により、まさか、じきじきしきな議会を自指していくべきという想いを込めて、この条例をこさえ、市民の思いに力いつべえ応こだえ、ごくごくを決意する。

当通信でも、初より「ペジへ譜り」を掲載してなかなかの人気を得てきました。(こ)最近は筆者の怠け癖で登場しないのが残念です) 壱滝の「あんでんかんでん市」の看板は「よつてつがいよ」(よつてつぶがいよ)です。もちろん「寄つていきなよ」とか「寄つていつて下さん」という意味です。又市原市のマスコットキャラクターの名前「おっさん」は「そうだよ」という意味の「おっさ」から来ていました。他にも「あんが」とか「うんならかす」とか傑作でなかなか暖かみのある言葉がいっぱいあります。いわばアート(ニッセン)クスの開催中の今、多くの人が全国からやって来ています。どんどん地域の言葉を活用し、多くの人に拵めて、その言葉とともにこの地の認知度を上げていけたらと思います。

長期戦略ビジョンの活用

既に3月のうちに回覧された冊子「加茂地区長期戦略ビジョン」は平成24年度と25年度のほぼ2年間を使って多くの委員によつて討議検討されたものです。その時の経過は、の通信でも何度も取り上げてきました。回覧して読むにしてはかなりのボリュームがあるため、冊子の内容すべてを読み始めた方は少ないと思います。ここには加茂地区的現状と問題点が事細かにあげられ、資源となるべきものも列挙されています。そしてなにより、問題点にどう取り組んでいったらいいのかということを時間をかけた討議の中から導き出していきます。

取り組みの理念は二つ。「加茂地区的安心・安全」「加茂地区的活性化」です。この理念のもとに交野弱者対策や高齢者対策、耕作放棄地の対策、学校跡地の活用や地域資源の発見など14の課題に取り組んでいます。多くの

れに伴つて交通弱者の問題、耕作放棄地の問題、高齢者の独り住まいの問題などマイナスの課題が深刻化しています。せつかく多くの労力と時間を割いた「加茂地区長期戦略ビジョン」を活かすためにも、今はます加茂地区の多くの人に、これを読んでもらい、現状ビジョンを知つてもらおうことが第一です。そこから批判なり、意見なりをどんどん出してもらはうとして、実現に向けてステップを一つずつ踏んでいかなければならぬでしよう。

征
軍
事
通
信
員

方がぜひ一度読まれることを願います。ただこれは「はじめにも書かれていますが、決して元巻なものではなくてこの地域をよりよくするためにたたき合として活用される」とを願い、加筆訂正すべき点や新たに付け加えるべきビジューンに付いては後で述べたいと思います。

ビジューンはビジューンのままに終わることなく、活かされてこそ意味を持ちます。どのようにビジューンを具体化させ、表現していくのか、そのことについては議論されていません。誰が、どのように、どんな資金で、最も肝心な部分だけについては、これからです。行政に働きかけることはもちろん必要なことですが、ただそれだけでなく、居住する私たち自身が主体的な立場で関わっていくことの必要性も述べられています。加茂地区には近年地域活動をするいろいろな団体が出て来ています。その人たちの主体的な活動も好ましいものと捉

A black and white photograph of a large, irregularly shaped, pale rock specimen resting on a dark, circular base. The rock has a rough, textured surface with visible internal structures or veins. The lighting highlights the contours and facets of the rock against the dark background.

天曾根里山通信

(3) 蒸しあがりの熱いうちにすり鉢に入れ、ヨモギを加える。
すり、末で十分に弾力が出るまで良くつき混ぜる。
(4) 全体にまんべんなく漬せ込みながら、手でよくこねる。
(5) 手に水をつけて、生地を1/2等分にする。生地を薄く延ばして円形にしてから、中心に丸めたあんをのせて包み、「ヨモギ」を入れると鮮かな色が出て、からだの中から気になりそうですね。子供と一緒にお団子を丸めたり、手で練つたりるのは、楽しい思い出になると思います。
小学生の頃、あんこを練るのは私の仕事でした。なべにすり付いてないといけないので、「あとどのくらい?」と聞かれて、「鍋の底が見えるまで」と言われます。油断していると、火がはねて熱いので一生懸命でした。

春になつた山野山へ出掛け「ヨモギ」を摘んで草むらを走るう!
用意する材料は二個分(十新粉200g、白玉粉40g
砂糖40g、温湯160cc、ヨモギ150g、重曹小さじ一粒あん300g)準備:ヨモギは葉茎のやわらかい部分を摘み、よく洗つてから重曹を入れて茹でる。水にさらしてから絞り、細かく刻んですり鉢にする。蒸器は強火にかけ蒸氣を上げておく。あんは1/2等分して丸めておく
①ホールに白玉粉と少量の水をいれてねる(粒粒がありますからね)次に上新粉、砂糖、残りの温湯入れて耳たぶぐらうの固さに練り、全体をまとめる。
②蒸器にクッキングペーパーを敷く。(蒸かし布でもよい)

できなくなつたら、他に移り住まなければやつていけない
も言つ。
これからどんな変化をこの地区にもたらすのだろうか。

月出校舎から月出工舎へ

